

2016 年 8 月 3 日



2016 年度 国際交流基金事業 アポイントメント・プログラム Cihangir Istek 准教授招聘報告

期 間：2016 年 4 月 25 日～2016 年 5 月 7 日

特別講義：日時：4 月 26 日（火）18:00～20:00

会場：生田キャンパス第二校舎 A 館特殊プレゼンホール（A416-417）

題目：Istanbul City at the Crossroads : Impacts of Modernism and Beyond on the
Urban Planning, Architecture and Design in Istanbul as a 'Transit' City

参加者：38 名（学部生：14 名、大学院生：10 名、研究者 14 名）

セミナー：日時：4 月 28 日（木）10:30～12:00 会場：中野キャンパス 7 階映像室

題目："iPoles": Information Hubs to Initiate, Support, and Facilitate Local
Interventions for Developing the Future Istanbul as Smart City"

参加者：15 名（学部生：2 名、大学院生：12 名、研究者 1 名）

概 要：Cihangir Istek 氏は、イスタンブール・ビルギ大学の准教授であり、世界 65 カ国以上が参加している 国際デザイン協議会（International Council of Design）の副会長を務めている。

特別講義は、近年グローバルなトランジット・シティとして成長著しいイスタンブールの都市変容を 1850 年から今日までを Early Modernity（1850s-1923）、Radical Modernity（1923-1950s）、Populist Modernity（1950s-1980s）、Erosion Modernity（1980s-2010s）の 4 期に分け、イスタンブールの建築・デザイン・都市計画にモダニズムが与えた影響とその超克という視点から、各期の課題とその解決に向けた戦略を明らかにした。学外から 10 名以上の研究者が参加し、イスタンブールと東京の比較研究の観点から活発な意見交換がなされた。

セミナーは、Cihangir Istek 氏らが 2014 年の ISTANBUL DESIGN BIENNIAL で発表した、スマートシティとしてのイスタンブールの未来を切り拓き住民参加を支援する“Prototyping Information Hubs”の提案内容、すなわち、“i-poles”というランドマークになりうるデザインされたストリートファニチュアの Hubs において無料のパブリック WiFi 接続サービスを提供するとともに、Community・Healthcare・Mobility に関するその場所特有の必要性のある情報を発信してソーシャルビジネスと都市開発を促進する取り組みについて解説し、日本における展開の可能性について意見を交換した。

Cihangir Istek 氏は滞在期間中、生田と駿河台と中野の 3 キャンパスを訪れ、都市計画研

研究室に所属する大学院生および学部生と懇親会にも参加していただいた。また、静岡県下田市・南伊豆町で4月29日～30日に開催された科学技術振興機構(JST)の社会技術開発研究センター(RISTEX)の「多様な災害からの逃げ地図づくりを通じた世代間・地域間の連携促進」研究開発プロジェクトのワークショップに、私をはじめ同プロジェクトの研究者や都市計画研究室の大学院生らとともに参加し、下田市における“Prototyping Information Hubs”の提案に関するプレゼンテーション、南伊豆町青市区の土砂災害からの逃げ地図づくりに関するコメントをいただき、地域を含めた有意義な国際交流の機会となった。



特別講義（4月26日・生田キャンパス）



セミナー（4月28日・中野キャンパス）



プレゼンテーション（4月29日・下田市）



逃げ地図づくりワークショップ（4月30日・南伊豆町）